

白根北中学校
学校だより

教育目標
自立 友愛 勇気



自分の力を信じて

先日の大相撲夏場所で14勝を挙げ、このほど第75代横綱に昇進した大の里関の活躍は大きな話題となりました。また大の里関は石川県出身ということもあって、昨年の能登半島地震で被災した皆さんを勇気づけたことでも注目を集めました。さらに新潟県にも縁があるというところで、今後のさらなる飛躍を期待せずにはいられません。初土俵から所要13場所で新横綱に昇進したことは、同じ石川県出身の先輩横綱の輪島関の21場所を更新した点でも不思議なつながりを感じます。

さて、石川県出身の力士といえば大の里関の他に、遠藤関や輝（かが

大逆転は、起こりうる。

わたしは、その言葉を信じない。

どうせ奇跡なんて起きない。

それでも人々は無責任に言うだろう。

小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。

誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。

今こそ自分を貫くときだ。

しかし、そんな考え方は馬鹿げている。

勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。

わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。

土俵際、もはや絶体絶命。

ひっくり返してみると…

土俵際、もはや絶体絶命。

わたしはただ、為す術もなく押し込まれる。

勝ち目のない勝負はあきらめるのが賢明だ。

しかし、そんな考え方は馬鹿げている。

今こそ自分を貫くときだ。

誰とも違う発想や工夫を駆使して闘え。

小さな者でも大きな相手に立ち向かえ。

それでも人々は無責任に言うだろう。

どうせ奇跡なんて起きない。

わたしは、その言葉を信じない。

大逆転は、起こりうる。

やき)関を思い浮かべる人もいると思いますが、このように石川県は、相撲が盛んなことで知られます。

石川県出身の力士で、以前、幕内最軽量という小兵ながら大活躍し人気を博した炎鵬（えんほう）関が

います。今は怪我などの影響もあり夏場所は幕下での取り組みでした。その炎鵬関が5年ほど前、出演していたCMがありました。

まず上の文章を読んでください。

炎鵬関が土俵際まで追い詰められ、絶体絶命の心境が伝わってきます。

次に下の文章を読んでください。

見ての通り、文章をひっくり返して並べてあります。読み比べてみて、どのように感じましたか？何だか

下の文章の方が大逆転の可能性を感じると思いませんか？同じ文章なのに何が違うのでしょうか？私はきっと、その人が、何を信じて何を信じないかだと思います。

周囲に流されて自分を信じられないか、最後まで自分を信じ続けるのか…。気持ちの持ち方の大切さが分かる気がします。

間もなく市内大会が始まります。最後まで自分を信じて頑張ってください！！

◆『白北共創』に込めた願い◆

今年度の生徒会年間活動目標は『白北共創』つながる生徒、広がる笑顔です。この「共創」には立場や考えの違う人たちが力を合わせて、新しい価値や成果を生み出し、新しいという意味があります。自主的・主体的な学校、よりよい白北を目指し、学校をすべての生徒で共に創っていききたいという願いを込めました。行事や企画等への積極的な参加により、白北を活気づけていくことで「つながる生徒、広がる笑顔」を達成できると思います。一人一人が学校の一員として、共に協力し合い、笑顔あふれる白北を創っていきましょう。

(生徒会長 ○○○さん)



◆後援会総会がありました◆

先月5月21日(水)に今年度の後援会総会がありました。昨年度の事業報告や会計報告の後、今年度の計画等について提案がありました。



後援会は令和3年5月に発足し、これまでに30周年事業での大型ソーラー電波時計や昨年度のワンタッチテントの購入等に使用させていただきました。後援会は、地域の皆さまの賛同による協力金が元になっています。これからも、大切に使用させていただきます。

◆第1回 避難訓練◆

28日(水)に第1回避難訓練を行いました。この時間は、テストを終えたばかりでしたが、真剣に臨むことができました。今回の訓練は、地震に伴う火災を想定した訓練でした。災害はいつ、どのような時に発生するか分かりません。そのため全体で行動が必要な場面では、落ち着いて行動することや、静かに指示を聞くことが大切です。もしも避難が必要になった際には、今回の訓練を思い出して行動しましょう。



◆お花をいただきました◆

先日、校区にお住いの○○さんにクジャクサボテンの花をいただきました。とても鮮やかな色合いで、早速、水に浮かべて職員室前に飾りました。ありがとうございました。



定期テストが終わりました。どの学年も、1つ進級して臨むテストはこれまでと気持ちも違ったのではないのでしょうか。テストは、学習の定着状況を確認するものです。返却後の見直しまでが大切です。まずはテストまでの準備、お疲れ様でした。



令和7年5月30日(金)

令和7年度 第4号

文責 校長 山口 靖博